

## 令和5年度 現代社会シラバス

科目名	現代社会	単位数	2単位	対象年次	3年次
-----	------	-----	-----	------	-----

●どのような学力を伸ばすのか

関心・意欲を育てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本および世界に対して深い関心を持つ。</li> <li>・国際社会で生きていく心がまえを身につける。</li> </ul>
思考力・判断力をUPする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・的確な資料に基づいて、社会的事象に対する客観的かつ公正なものの見方や考え方を育成するとともに、学び方を習得する。</li> </ul>
技能・表現力を伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的事象に対する関心を持って、多様な角度から考察できる。自分の考えをことばや文章で表現できる。</li> </ul>
知識を身につける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代に生きる国際人として基礎的な知識を身につける。</li> </ul>

●評価について

- 評価は、定期テスト（知識・理解）を中心に、授業への取り組み状況（関心・意欲・態度）、発言や提言（思考・判断）などを総合的に判断して行う。
- 定期考査は、前期・後期ともに中間考査と期末考査をそれぞれ100点満点で行う。
- 各学習のまとめ段階では、自己評価や相互評価も活用する予定である。
- なお、年間授業時数の1/3以上を欠席すると単位を認定しない。

編	学習内容	時数	学習のねらい
第1編 私たちの生きる社会	1. 環境と私たちの生活 ①地球環境のいま(1) ②地球環境のいま(2) ③私たちの地球を守るために	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球規模の環境問題にはどのようなものがあるかを理解させる。また、さまざまな環境問題と人間の活動とのかかわりについて理解させ、よりよい環境を次の世代に引き継ぐためにはどうしたらよいか考えさせる。</li> </ul>
	2. 資源・エネルギー問題と私たちの生活 ①限りある資源 ②資源問題の解決をめざして	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源の有限性について理解を深め、石油に代わる資源には何があるか、資源を有効に利用するためにどうしなければならないかを考えさせる。</li> </ul>
	3. 科学技術の発達と私たちの生命 ①科学技術の発達と生命 ②生命倫理をめぐる問題	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学技術の発達が社会や生活をどのように変えてきたか、科学技術の発達にともなうさまざまな問題について考えさせる。</li> </ul>
	4. 高度情報社会と私たちの生活 ①情報の高度化の進展 ②高度情報社会の課題	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化の進展が社会に及ぼす影響、課題について考えさせる。</li> </ul>

第2編 現代社会と人間としてのあり方 生き方	1. 青年期と自己の形成 ①青年期とは ②青年期を充実させるために ③伝統や文化とのかかわり ④祭りと年中行事 ⑤社会とのかかわり ⑥私たちの生きがい	6	・青年期におけるさまざまな悩みと、それを克服するためにはどのようにすればよいか考えさせる。 ・一人前の人間として自立するためには何をしたらよいか考えさせる。
	2. 個人の尊重と法の支配 ①個人と国家 ②法の支配 ③基本的人権の保障 ④世界の政治体制	4	・法の支配とはどのようなものかを考えさせる。
	3. 現代の民主政治と政治参加の意義 ①日本国憲法の基本原理 ②平和主義と日本の安全保障 ③冷戦終結後の防衛問題 ④平等に生きる権利 ⑤自由に生きる権利 ⑥豊かに生きる権利 ⑦新しい人権 ⑧基本的人権と公共の福祉 ⑨国会の運営と権限 ⑩内閣と行政の民主化 ⑪裁判所と人権保障 ⑫地方自治と住民の福祉 ⑬選挙制度の現状と課題 ⑭世論の形成と政治参加	14	・日本国憲法の三つの基本原則がめざすものを理解させる。 ・平和主義をめぐって、どのような動きがあったのかを理解させる。また、自衛隊をめぐる問題について理解させる。 ・自由とはどのような意味をもつのか、自由の行使には社会的責任がともなうことを考えさせる。 ・身のまわりの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について理解させ、その解決策を考えさせる。 ・社会権が私たちの生活をどのように変えたか考えさせる。 ・新しい人権にはどのようなものがあるか理解させる。 ・基本的人権と公共の福祉の関係について理解させる。 ・憲法を守るための裁判所の権限について理解させる。 ・国権の最高機関である国会について理解させる。 ・議院内閣制のしくみ、内閣の組織と権限について理解させる。 ・国民が政治に参加する方法には、どのようなものがあるか考えさせる。

第2編 現代社会と人間としてのあり方 生き方	4. 国際政治の動向と日本の役割 ①国家主権と国際法 ②国際連合の役割と課題 ③第二次世界大戦後の国際社会 ④冷戦終結後の国際社会 ⑤核兵器の廃絶と国際平和 ⑥地域紛争と人種・民族問題 ⑦国境と領土問題 ⑧日本の役割と私たちの生き方	10	・主権国家とはどのようなものか、国際社会における国際法の役割と限界について理解させる。 ・人種・民族紛争の実態、難民問題について理解させる。 ・国連の成立、役割と課題について理解させる。 ・日本の外交の基本方針について理解させ、アジアの一員としての日本の役割について考えさせる。 ・国際社会における日本の役割、国際社会の一員として何をすべきか考えさせる。
	5. 現代の経済社会と私たちの生活 ①経済と私たちの生活 ②経済体制の変容 ③現代の企業 ④市場のしくみ ⑤国民所得と私たちの生活 ⑥景気変動と物価の動き ⑦財政のしくみと税金 ⑧日本の財政の課題 ⑨金融機関のはたらき ⑩戦後日本経済のあゆみ（1） ⑪戦後日本経済のあゆみ（2） ⑫技術革新の進展と産業構造の変化 ⑬中小企業の現状と役割 ⑭食の安全とこれからの日本の農業 ⑮雇用と労働問題 ⑯労働環境の整備 ⑰公害の防止から環境保全へ ⑱費者問題と消費者主権 ⑲社会保障と福祉社会 ⑳これからの社会保障	20	・資本主義経済の特徴と課題、社会主義経済の特徴と現状を理解させる。 ・経済の発展によって社会はどのように変化したか理解させる。 ・企業の社会的責任について理解させる。 ・政府はどのような経済的役割をもっているかを理解させる。 ・財政にはどのような機能と役割が求められているかを理解させる。 ・金融機関のはたしている役割、中央銀行の金融政策について理解させる。 ・公害の原因と、それに対する国・企業の責任について理解させる。 ・消費者問題に対する企業の責任や国の対策について理解させる。

第2編 現代社会と人間としてのあり方 生き方	6. 国際経済の動向と日本の役割 ①国際分業と貿易 ②国際経済体制のあゆみ ③国際収支と為替相場 ④国際経済の動向 ⑤進む地域的経済統合 ⑥発展途上国の経済と南北問題 ⑦国際社会のこれから	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由貿易と保護貿易の違いについて考えさせ、自由貿易を進めるための国際機関の機能と役割について理解させる。</li> <li>・日本の国際収支の変化、為替相場の変動が及ぼす影響について理解させる。</li> <li>・日本の貿易の特徴について理解させる。</li> <li>・国際経済機構や地域的経済統合にはどのようなものがあるか理解させる。</li> <li>・南北問題の原因、発展途上国のかかえている問題について理解させ、南北問題解決のために日本は何をすべきか考えさせる。</li> </ul>
	7. 民主社会に生きる倫理 ①豊かな人生を求めて ②日本の伝統的な考え方 ③近代の西洋社会に見られる考え方 ④近代市民社会から大衆社会へ ⑤他者とともに生きる ⑥豊かな社会の実現に向けて	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ私たちの生命は尊重されなければならないのか考えさせる。</li> <li>・日常生活において、私たちはどのような場面で宗教や芸術とかかわっているのかを考えさせる。</li> </ul>

# 令和5年度「高等学校 新公共」(公共711) シラバス

科目	公共	単位	2	学年	2
使用教科書	高等学校 新公共(第一学習社)			副教材等	なし

学習の到達目標	<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</li> <li>現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</li> <li>よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</li> </ul>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

月	学習項目	■学習内容(ねらい)・評価の観点	a	b	c	評価方法
4	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち ①社会に生きる私たち ②個人の尊厳と自主・自律 ③多様性と共通性 ④伝統文化とのかかわり ⑤自立した主体をめざして	<ul style="list-style-type: none"> <li>■社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。</li> <li>自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解している。</li> <li>人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。</li> <li>自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出し、いこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。</li> <li>公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。</li> <li>社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>公共的な空間をつくる私たちについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度</li> <li>発問評価</li> <li>提出課題</li> <li>定期考査</li> </ul>
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 ①人間と社会のあり方についての見方・考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>■古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。</li> <li>選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。</li> <li>現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、上に示す考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方につ</li> </ul>	○	○	○	

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法	
5		<p>いて探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。</li> <li>・幸福、正義、公正などに着目して考えている。</li> <li>・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・公共的な空間における人間としてのあり方生き方について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>	○	○ ○	○		
	第3章 公共的な空間における基本的原理 ①人間の尊厳と平等、個人の尊重 ②民主主義と法の支配 ③自由・権利と責任・義務 ④日本国憲法に生きる基本的原理	<p>■古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。</li> <li>・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。</li> <li>・幸福、正義、公正などに着目して考えている。</li> <li>・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・公共的な空間における基本的原理について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>	○	○ ○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・定期考査</li> </ul>	
	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち						
	第1章 法的な主体となる私たち	<p>■憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。</p>					
6	主題1 法や規範の意義と役割 ①私たちと法 ②法と基本的人権 ③自由に生きる権利と法・規範 ④平等に生きる権利と法・規範 ⑤安全で豊かに生きる権利と法・規範 ⑥法をよりよいものにするための権利	<p>■法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法や規範の意義及び役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</li> <li>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</li> <li>・中学校までに学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</li> <li>・法や規範の意義と役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>	○	○ ○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・定期考査</li> </ul>	
	主題2 契約と消費者の権利・責任 ①さまざまな契約と法 ②消費者の権利と責任	<p>■契約が対等な当事者間の合意といえるための条件を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</li> <li>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</li> <li>・家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</li> </ul>	○	○ ○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・定期考査</li> </ul>	

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
7	主題3 司法参加の意義 ①裁判所と司法 ②国民の司法参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約と消費者の権利・責任について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> <li>■個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解する。</li> <li>・司法参加の意義に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</li> <li>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</li> <li>・政治分野の国会・内閣のしくみとも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</li> <li>・司法参加の意義について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・定期考査</li> </ul>
	第2章 政治的な主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> <li>■よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。</li> </ul>				
	主題4 政治参加と公正な世論形成 ①私たちと選挙 ②選挙の現状と課題 ③世論の形成と政治参加 ④国会と立法 ⑤内閣と行政 ⑥地方自治と住民福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>■民主政治を推進するために、私たちが果たすべき責任を理解する。</li> <li>・政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</li> <li>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</li> <li>・中学校までに学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</li> <li>・政治参加と公正な世論形成について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・定期考査</li> </ul>
9	主題5 国際社会と国家主権 ①国家と国際法 ②国境と領土問題 ③国際連合の役割と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを理解する。</li> <li>・国際社会と国家主権に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</li> <li>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</li> <li>・国際社会の特徴と課題について、幸福、正義、公正などに着目して考えている。</li> <li>・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</li> <li>・国際社会と国家主権について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・定期考査</li> </ul>
	主題6 日本の安全保障と防衛 ①平和主義と安全保障 ②日本の安全保障体制の変容 ③核兵器の廃絶と国際平和	<ul style="list-style-type: none"> <li>■日本国憲法の平和主義の下、私たちが果たすべき責任を理解する。</li> <li>・日本の安全保障と防衛に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</li> <li>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</li> <li>・日本国憲法の平和主義をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</li> <li>・日本の安全保障と防衛について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・定期考査</li> </ul>
10	主題7 国際社会の変化と日本の	<ul style="list-style-type: none"> <li>■国際平和を実現するために必要な日本の役割を理解する。</li> <li>・国際社会の変化と日本の役割に関わる現実社会の事柄や</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> </ul>

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
11	役割 ①今日の国際社会 ②人種・民族問題と地域紛争 ③国際社会における日本の役割	<p>課題を理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</li> <li>中学校までに学んだ知識や、地理・歴史など他教科で学んだ知識もふまえ、経済分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</li> <li>国際社会の変化と日本の役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>	○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出課題</li> <li>定期考査</li> </ul>
	第3章 経済的な主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> <li>公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。</li> </ul>				
	主題8 雇用と労働問題 ①私たちと経済 ②労働者と権利 ③労働環境と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子高齢化による労働力不足が問題となるなか、活発な経済活動と労働者の働きやすさを共に成り立たせるために必要なことを理解する。</li> <li>雇用と労働問題に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</li> <li>現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</li> <li>法分野の基本的な権利とも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</li> <li>雇用と労働問題について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度</li> <li>発問評価</li> <li>提出課題</li> <li>定期考査</li> </ul>
	主題9 社会の変化と職業観 ①日本経済のこれまでとこれから ②技術革新の進展 ③現代の企業 ④中小企業の現状と役割 ⑤日本の農林水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどう考えていけばよいか理解する。</li> <li>社会の変化と職業観に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</li> <li>現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</li> <li>歴史や情報など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</li> <li>社会の変化と職業観について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度</li> <li>発問評価</li> <li>提出課題</li> <li>定期考査</li> </ul>
12	主題10 市場経済の機能と限界 ①市場経済と経済運営 ②市場のしくみ ③経済発展と環境保全 ④国民所得と私たちの生活 ⑤経済成長と国民の福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。</li> <li>市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</li> <li>現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</li> <li>歴史など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</li> <li>市場経済の機能と限界について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度</li> <li>発問評価</li> <li>提出課題</li> <li>定期考査</li> </ul>
	主題11 金融のはたらき	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済において、金融市場はどのような役割を果たしている</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度</li> </ul>



月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
1	①金融の意義と役割 ②金融のいま	<p>のか理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金融のはたらきに関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</li> <li>現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</li> <li>家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</li> <li>金融のはたらきについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>発問評価</li> <li>提出課題</li> <li>定期考査</li> </ul>
	主題 12 財政の役割と社会保障 ①財政のしくみと租税 ②日本の財政の課題 ③社会保障と国民福祉 ④これからの社会保障	<p>■少子高齢化が進むなかで、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>財政の役割と社会保障に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</li> <li>現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</li> <li>少子高齢化・人口減少などの社会背景をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して考えている。</li> <li>自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</li> <li>財政の役割と社会保障について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度</li> <li>発問評価</li> <li>提出課題</li> <li>定期考査</li> </ul>
	主題 13 経済のグローバル化 ①国際分業と貿易 ②国際収支と国際経済体制 ③外国為替相場の動き ④グローバル化する経済 ⑤地域的経済統合 ⑥国際社会における貧困や格差 ⑦地球環境問題 ⑧資源・エネルギー問題 ⑨国際社会のこれから	<p>■経済がグローバル化するなかで、貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経済のグローバル化に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。</li> <li>現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</li> <li>地理など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、政治分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</li> <li>経済のグローバル化について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度</li> <li>発問評価</li> <li>提出課題</li> <li>定期考査</li> </ul>
2						
3	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち ①排出権取引を考える～地球環境問題 ②ベストミックスを考える～資源・エネルギー問題 ③ゲノム編集を考える～生命倫理 ④インターネットによる投票を考える～情報 ⑤フェアトレードを考える～国際社会の課題	<p>■持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで学んだ内容や課題を解決するための知識を理解している。</li> <li>地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだしている。</li> <li>これまでの学習を関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。</li> <li>現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度</li> <li>発問評価</li> <li>レポート作成</li> <li>発表</li> <li>定期考査</li> </ul>

令和5年度 日本史Bシラバス

教科名	日本史B	単位数	4単位	年次・学科・コース	2,3年次・普通科自由選択
		教科書	高校日本史改訂版 (山川出版社)		

目的

- 日本の歴史の流れを把握できるようにする。
- 世界の中の日本の位置づけがわかるようにする。
- 歴史資料（文字や写真）から歴史を読み取れるようにする。

月	学習内容	時数	指導内容	備考
4月	資料を読む	1	1. 日本文化のはじまり (旧石器文化と縄文文化)	ビデオ映像も活用しながら進める。
	第1章 古代社会の形成	4 6	2. 農耕の開始 (弥生文化と小国家の形成) 3. ヤマト政権と古墳 (古墳文化について)	
5月	第2章 律令国家の形成	12	1. 律令国家の成立 (推古朝の政治と飛鳥文化) (大化の改新から白鳳文化について) 2. 律令国家の繁栄 (奈良時代の政治と天平文化) 3. 律令国家の変質 (平安初期の政治と弘仁・貞観文化)	
6月	第3章 貴族政治の展開	8	1. 摂関政治 (藤原氏の他氏排斥) 2. 国風文化 (貴族社会の生活と文化) 3. 荘園の発達と武士の台頭 (荘園制と武士団の成長)	
7月				
9月	第4章 武家社会の形成	10	1. 院政と平氏の台頭 2. 鎌倉幕府の成立と発展 (源平の争乱～承久の乱) 3. 蒙古襲来と幕府の衰退 (元寇と御家人社会の変質) 4. 鎌倉文化 (鎌倉時代の新仏教)	
10月	第5章 武家社会の成長	10	1. 室町幕府の成立 (建武の新政と南北朝時代) 2. 下剋上の社会 (惣村の成長と一揆の時代) 3. 室町文化 (北山文化と東山文化) 4. 戦国の動乱 (応仁の乱と戦国大名の登場)	
11月	第6章 幕藩体制の成立	8	1. 織豊政権 (織田信長の統一事業と豊臣秀吉の天下統一) 2. 江戸幕府の成立 (幕府による大名統制と鎖国政策) 3. 江戸初期の外交と文化	
	第7章 幕藩体制の展開	8	1. 幕政の安定 (文治政治への転換) 2. 経済の発展 (農業生産の拡大、流通の発展) 3. 元禄文化	
12月	第8章 幕藩体制の動揺	8	1. 幕政の改革 (享保の改革と田沼時代) 2. 幕府の衰退 (寛政の改革と大御所時代) 3. 化政文化	
	第9章 近代国家の成立	10	1. 開国と幕府の滅亡 (ペリー来航と攘夷運動の展開) 2. 明治維新 (戊辰戦争と明治新政府の樹立) 3. 立憲国家の成立 (自由民権運動と国会開設、憲法制定) 4. 大陸政策の展開 (日清戦争と日露戦争、韓国併合) 5. 近代産業の発展 (文明開化と日本の産業革命) 6. 近代の文化	
1月	第10章 近代日本とアジア	8	1. 第一次世界大戦と日本 2. 政党政治と大衆文化 3. 恐慌の時代 4. 軍部の台頭 5. 第二次世界大戦	
2月				
3月	第11章 現代の世界と日本	7	1. 占領下の改革と主権の回復 2. 55年体制と高度経済成長 3. 現代の情勢	

## 令和5年度 就職社会 シラバス

科目	就職社会	単位	2	学年	2
使用教科書	なし		副教材等	なし	

教科・科目(公民科 就職社会) 単位数(2)単位 担当者名 山城 真奈美

学習の到達目標	<p>平成10年より導入された単位制により、多様化した生徒の特性や進路などに的確に対応することが可能となった。本校は県内普通科高校の中では、就職希望者が多い。そのため、就職試験に備える科目を設置する意義は大きい。就職という一つの転機に向け、どのような準備をすればよいのか深く自覚を持たせる。そして、人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<p>現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。</p>	<p>現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。</p>	<p>よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>

	月	指導内容	配当時間	a	b	c	評価方法
前期	4	1. 地理(一般常識) ①都道府県と日本の領域 ②世界の地域・国々 ③自然災害と防災を考える	6	○ ○	○		*新聞記事 *ICT機器の活用 *单元ごとに小テストを実施
	5	2. 日本史(一般常識) ④原始～近代史	6	○			

	6	⑤戦後史と政治(公民分野との関連を考えよう) 3. 世界史(一般常識) ⑥第2次大戦と戦後国際社会 4. 政治(時事問題) ⑦私たちの政治と選挙 ⑧日本国憲法の行方は ⑨主な国々との外交 ⑩国際化と疫病 5. 経済(時事問題) ⑪景気とくらし ⑫変わる日本の産業・貿易 ⑬これからのエネルギー	8  6  8	○ ○  ○ ○ ○ ○ ○	○   ○   ○	○	
後期	10 11 12 1 2 3	6. 社会・労働(時事問題) ⑭人口減少と超高齢化社会 ⑮社会保障の将来は ⑯働くということ 7. 倫理(時事問題) ⑰違いを認め合って ⑱いのちを考える ⑲情報社会に生きる ⑳SDGsってなんだろう 8. 実践 ⑰職種調べ ⑱履歴書をかいてみよう ⑲面接のマナー 9. 国際社会(時事問題) ⑳アメリカと中国の行方 ㉑分断深まる世界 ㉒平和な世界いつ 10. まとめ ㉓総合問題 (一般常識・時事問題、小論文)	8  6  8  6  8	○   ○   ○ ○ ○ ○ ○ ○	○  ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○   ○ ○ ○	*新聞記事 *ICT機器の活用 *单元ごとに小テストを実施

## 令和5年度就職社会シラバス

科目名	就職社会		単位数	2単位	対象年次	3年次
目 標	<p>平成10年より導入された単位制により、多様化した生徒の特性や進路などに的確に対応することが可能となった。本校は県内普通科高校の中では、就職希望者が多い。そのため、就職試験に備える科目を設置する意義は大きい。就職という一つの転機に向け、どのような準備をすればよいのか深く自覚を持たせる。また、現代を生きていくための、社会科全般にわたる基本事項の習得を目指す。教科書は使わず、ワークや新聞、時事問題集、雑誌、資料集等を利用していく。</p>					
学期	月	指 導 内 容		配当時数	備 考	
前 期	4	1. 地理(一般常識) ①都道府県と日本の領域 ②世界の地域・国々 ③自然災害と防災を考える		6	*新聞記事の利用 *ICT機器の活用	
	5	2. 日本史(一般常識) ④原始～近代史 ⑤戦後史と政治(公民分野との関連を考えよう)		6	*单元ごとに小テストを実施	
	6	3. 世界史(一般常識) ⑥第2次大戦と戦後国際社会		8		
	7	4. 政治(時事問題) ⑦私たちの政治と選挙 ⑧日本国憲法の行方は ⑨主な国々との外交 ⑩国際化と疫病		6		
	8	5. 経済(時事問題) ⑪景気と暮らし ⑫変わる日本の産業・貿易 ⑬これからのエネルギー		8		
	9					
	10	6. 社会・労働(時事問題) ⑭人口減少と超高齢化社会 ⑮社会保障の将来は ⑯働くということ		8	*新聞記事の利用	
	11	7. 倫理(時事問題) ⑰違いを認め合って ⑱いのちを考える ⑲情報社会にいきる ⑳SDGsってなんだろう		6	*ICT機器の活用 *单元ごとに小テストを実施	
	12	8. 実践 ㉑職種調べ ㉒履歴書をかいてみよう ㉓面接のマナー		8		
後 期	1	9. 国際社会(時事問題) ㉔アメリカと中国の行方 ㉕分断深まる世界		6		
	2	㉖平和な世界いつ				
	3	10. まとめ ㉗総合問題(一般常識・時事問題、小論文)		8		
	3					

## 令和5年度日本史基礎シラバス

科目	日本史基礎	単位	2	学年	2
使用教科書	なし	副教材等	なし		

教科・科目(地理歴史科 日本史基礎) 単位数(2)単位 担当者名 山城 真奈美

学習の到達目標	平成10年より導入された単位制により、多様化した生徒の特性や進路などに的確に対応することが可能となった。我が国の歴史的過程と生活文化の地域的特性についての理解と知識を深め、国際社会で全体的に生きる民主的・平和的国家社会の一員としての必要な自覚と資質を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけようとしている。	歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを次期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断する力、思考・判断したことを説明したり、それを基に議論しようとしている。	歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養おうとするとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して我が国の歴史にたいする愛情、国民としての自覚を持とうとしている。

月	指導内容	配当時間	a	b	c	評価方法
前期	4 1 オリエンテーション 歴史区分確認 日本地図確認	4	○ ○			*日本史Aの内容に則している *ICT機器の活用 *確認テストを実施
	5 2 自主教材による授業の展開(基本) ①日本の成り立ち ②飛鳥時代	20	○ ○			

	6	<p>③奈良時代 ④平安時代(1) ⑤平安時代(2)</p> <p>これまでの学習範囲を確認テスト</p>		○ ○ ○		○	
	7	3 これまで学習した中で、歴史人物新聞を作成する。 発表	6		○		○
	9	4 校外学習:県立博物館、宜野湾市博物館、平和祈念資料館、沖縄県公文書館などを実際に見て、利用の仕方、理解の仕方を学ぶ。身近な歴史から、日本史へ広げる。歴史史料の価値を知る。	6	○			
後期	10	1 自主教材による授業の展開(基本)	20				*日本史Aの内容に則している *ICT機器の活用 *確認テストを実施
	11	①室町時代(1) ②室町時代(2) ③安土桃山時代		○ ○ ○			
	12	④江戸時代(1) ⑤江戸時代(2) これまで学習範囲を確認テスト		○ ○		○	
	1	2 一年間を振り返り日本史カルタ作成・実践	4			○	○
	2	3 個別に選んだテーマを追求していく。1年をとおして、自己の歴史テーマを考え、それをまとめる(発表含む)	10	○	○		○
	3	4 学習内容に関連する諸施設と調整を行い、適宜に校外学習を実施する。博物館などを実際に見て、利用の仕方、理解の仕方を学ぶ。身近な歴史から、日本史へ広げる。歴史史料の価値を知る。		○			

## 令和5年度日本史基礎シラバス

科目名	日本史基礎	単位数	2単位	対象年次	3年次
目 標	平成10年より導入された単位制により、多様化した生徒の特性や進路などに的確に対応することが可能となった。我が国の歴史的過程と生活文化の地域的特性についての理解と知識を深め、国際社会で全体的に生きる民主的・平和的國家社会の一員としての必要な自覚と資質を養う。				
学期	月	学 習 内 容	配当時数	備 考	
前 期	4 月 か ら 9 月 ま で	<p>①自主教材による授業の展開(基本) 原始時代・平安時代までの流れを押さえる</p> <p>②これまで学習した中で、歴史人物新聞を作成する。</p> <p>③校外学習:県立博物館、宜野湾市博物館、平和祈念資料館、沖縄県公文書館などを実際に見て、利用の仕方、理解の仕方を学ぶ。身近な歴史から、日本史へ広げる。歴史史料の価値を知る。</p>	35時間	<p>*日本史Aの内容に則している</p> <p>*ICT機器の活用</p> <p>*学校車の利用</p>	
後 期	10 月 か ら 3 月 ま で	<p>①自主教材による授業の展開(基本) 鎌倉時代・江戸時代までの流れを押さえる</p> <p>②1年間を通して学んだ内容から歴史カルタを作成。</p> <p>③個別に選んだテーマを追求していく。 1年をとおして、自己の歴史テーマを考えていく。 それをまとめる。</p> <p>④校外学習:嘉手納みちの駅、実際に見て、利用の仕方、理解の仕方を学ぶ。身近な歴史から、日本史へ広げる。歴史史料の価値を知る。</p>	35時間	<p>*日本史Aの内容に則している</p> <p>*ICT機器の活用</p> <p>*学校車の利用</p>	